

交流山行 奥美濃 金糞岳 (1317M)

2014年3月9日(日)

L : 磯部S (記)、ヤマメ、松野、磯部N、手塚、鈴木H、鈴木M、久保田K

今回は会員の親睦を深めるための交流山行。土日の一泊組、土曜日だけの日帰り組、それと私たち日曜 日帰り組の3パーティーが金糞岳に集結した。

前夜出発、関ヶ原ICで下り奥伊吹道の駅で仮眠。この時期に意外と車中泊が多いことに驚く。翌日、除雪された道を高山キャンプ場まで移動。鳥越林道入口には簡易的な車止めがあったが、先にわだちもあり除雪されていたため車で進みたくなる衝動に駆られたが、我慢してキャンプ場前の駐車場に駐める。

ここから林道を2時間ほど歩いて、登山口へ向かう。

ゆるやかな傾斜で助かったが、凍結でガリガリと歩きにくい道でイヤになる。



鳥越林道

赤い看板のある小森口より中津尾根を登る。積雪は30センチくらい。

前日組が道を作ってくれたので、快調に進む。

天気も良く、青空が広がって、四方の山の稜線がきれいに見える。急斜面ほか危険な箇所はまったくな

い。



連状口手前より、左手奥に金糞岳が見える

林道と交わる連状口より10分ほど登って、一泊組と合流する。すでに登頂を済ませて私たちが登ってくるのを待っていてくれたのだ。感謝です。わずかな時間だが交流を楽しむ。

彼らが2時間かけて作った苦心のスノーマウントを見学。ザックを積んだ上にツェルトを被せ、雪を積み上げた後にザックを抜き、カマクラのような形状となるそうだが、中も広くて完成度の高さに感心。全員で記念撮影をして、一泊組は下山。私たちは一路頂上をめざして上に向かう。
(ちなみに土曜日帰り組はここでスノーマウントを作って登頂せず下山。献身的山行だった。)



スノーマウント・・・下も掘り下げたため、見た目より中は広くて6人で宴会できたそう。



一泊組と日曜組（土曜日組ごめんなさい・・・）

次第に高度も増し、尾根状となる。右手には小さいながらも雪庇が形成されていた。
振り返れば白い伊吹山、左手に海のような琵琶湖も見え、開放感一杯の景色がきれいで気持ち良い。



頂上まであとわずか、奥美濃の山々と後ろにでっかい伊吹山



直ぐ先が頂上。樹氷も白い花のようで美しい。

頂上に近づくにつれ、樹氷がいっぱいついて、木に花が咲いたようだ。
青空とのコントラストが美しく、歓声が上がる。
ようやく台地状の山頂にたどり着き、何枚も写真を撮る。
雪山デビューの仲間もいて、ここまで大変だったが、素晴らしい景色に大喜びだった。
ここまで時間が予定よりかかったので、若干休んで名残惜しくも下山する。



感動の頂上です

下りはシリセードも一部試しながら、ゆっくり下りた。

林道の凍結も日中の気温でほとんど消えていて楽に歩け、結局1日わかんもアイゼンも使用せず（すべて仲間が良い道を作ってくれたためです。）、辺りが暗くなるころ無事キャンプ場に着く。

あねがわ温泉で風呂&食事を済ませ、無事浜松にその日のうちに帰ることができた。

<タイム> 高山キャンプ場（7:25）－小森口（9:25）－1040M辺り一泊組幕営地（12:05-20）－頂上（14:15）－高山キャンプ場（18:25）

以上